⑸　まちのゾーンの基本目標

たのしむまち、それは郷土の満足感

基　本　目　標

- らしさをいかした
  魅力ある都市景観づくりをすすめる
- 住民参加の活力あるまちづくりをすすめる
- まちの中の緑、水、歴史の保全と創造を図る
- 雪に強いまちの形成を図る

まちは、地域の中心として多くの人々が集まる所です。このため、まちには、地域の顔としての象徴性や華やかさといった、非日常的なまちの機能を楽しむ空間が求められます。

また、まちは多くの人々が居住する所です。このため、日常生活の場としての開放感と落ち着きのある雰囲気といった、日々の生活を楽しむ空間も求められます。

したがって、出会いの場としてのまちのにぎわい、生活の場としてのまちのうるおい、やすらぎなど、まちならではの良さを次の世代におくるため、まちは共有財産だという意識を持ちながら、人々が満足できるまちをつくることが必要です。



フェニックス通り（福井市）

■ 福井のまちの特徴

地域の中心7都市

本県の7市は、地形、交通、産業立地や歴史的背景などによって、それぞれの都市の雰囲気を形成しています。また、各都市周辺のまちやむらに対しては、経済、文化、産業などにおいて、中心的な役割を担っています。

これらの都市の街路、公園、区画整理などの都市基盤は、比較的高い水準に達していますが、近年、都市中心部は郊外への都市機能の分散等により、都市活力の低下がみられます。

都市周辺のまち

本県の都市周辺のまちは、上記の7都市の影響を受けつつも、地域の行政、文化、交通の中心として、また、地形や歴史的背景などにより、それぞれのまちの雰囲気を形成しています。これらのまちでは、福井市近郊の一部を除いて、人口が停滞、あるいは減少していますが、近年はこれに歯止めをかけ、まちに人を呼び戻そうと、多くのまちが、独自の方法でまちの活性化に取り組んでいます。

まちの身近な生活の場の雰囲気

本県のまち周辺は、自然が豊かで、車で行けば短時間で自然に親しむことができます。また、人々は近所に買物に行くときや職場に行くときも車を使います。このように、本県の生活は車への依存度が高く、そのため、まちの姿も車社会に対応した機能性や利便性に重きをおいたものになりがちです。また、積雪地であるため、建物のつくり、庭のつくりも雪に対応した機能性や安全性が重要視され、その結果、町並みも比較的単調なものになっています。

■ 福井のまちの課題

まちの顔をつくる

◆ 県内の都市中心部は、多くが鉄道駅周辺にあり、各都市の玄関口として位置づけられます。このため、都市中心部では、都市の顔として、その都市らしい都市景観を形成し、イメージの向上、にぎわいの復活を図る必要があります。

歩いて楽しいまちをつくる

◆ 緑や水といった自然環境との調和、そのまちがもつ歴史、伝統の活用、建造物のデザイン化により、そのまちらしさをいかした個性あるまちをつくる必要があります。

◆ 街路の緑化、修景により、ジョギングや散歩などが楽しくできる歩行者空間をつくる必要があります。

◆ まちにおける緑の拠点として、人々の余暇活動の多様化に対応した、公園や広場の整備拡充を図る必要があります。

いきいきとしたまちをつくる

◆ 雪に強い道づくり、雪に強い建物づくりを推進するとともに、雪を教材とした学習、住民が参加する冬のスポーツ・レクリエーションの普及、雪まつりなどの行事の開催により、積極的に雪を利用し楽しむことによって、冬期のまちの活性化を図る必要があります。

◆ まちは人々の共有財産だという意識を持つとともに、行政と民間が一体となったまちづくりを推進する必要があります。